

新宮山彦ぐるーぷ第2045回

平治宿水場整備と雨漏り調査、バッテリー交換など

◇実施日；2019年9月20日（金） 曇り後小雨

◇参加者…沖崎吉信、児嶋道夫、生熊敏男、山川治雄、梶野照雄  
（5名）

平治宿小屋を利用した登山者から、照明が点灯しないとの情報もたらされ、緊急に点検・修理の必要が生じた。

9月21日～23日の三連休に向いて対処するつもりだったが、台風17号の接近で三日とも荒天の予報になった。



持経宿に到着

倒木の処理（平治宿北で）

水場に降りる

連休後の早い日に実施しようと思っていたが、児嶋さんからファックスが届き「20日（金）に実施しよう。バッテリー、工具等は準備する。

水場のグレーチング取り付けのためのアンカー穴あけもできるので、生熊さんに同行してもらいたい。雨漏りの点検も行う。少人数で実施可能」との連絡があり、20日と決めて呼びかけ、5人が参加することになった。

当日8時30分、池原のスポーツ公園に集合、沖崎車と山川車で池郷林道を進む。いつも落石が多いはじめの2km位も落石は少なく20分ほどでゲートに到着。ゲート先の路面補修のため、山川、梶野の二人が各10袋、計20袋の土嚢を持ち込んだが、深く掘れ込んだ舗装面はすでに土砂を入れて補修済だった。お盆の時の台風10号以後に整備されたようだ。今後、大雨などで土嚢が必要になるかと思いい、ゲート横にデポしておいた。おかげで持経宿まで途中で一度も降りることなく到着した。

この日も午後は雨の予報であり、持経宿に到着後すぐに平治宿に向けて出発した。



土砂の排除



グレーチング設置工事

先日、持経宿にデポしていたグレーチング一枚を運ぶ。約1時間で平治宿に着く。小屋内外をチェックするが、異常は見られない。床の湿りも気になる状態ではなかった。すぐに全員で水場に降りる。水場の貯水槽は土石がいっぱい詰まっていた。山川さんを中心に、3人で土石を取り除く。場所が限られているので、3人以上が同時に作業する事は出来ない。詰まっていた土石をほぼ取り除いてから、児嶋さんが振動ドリルでアンカーの穴を2ヶ所あけた。

グレーチングを3枚並べ、それが落ちたりズレたりしないようにチェーンでそれぞれを繋いだ。チェーンは片側だけが固定されているので、手前のグレーチングを持ち上げると水槽が顔を出す仕組みだ。この作業は生熊さん主導で行われ、約一時間で完了した。

雨が降るたびに土石が流入して貯水槽が埋まっていたが、本日の工事で大きな石の流入は阻止できるだろう。

このグレーチングの設置は、生熊さんが以前からその必要性を考えられておられ、2度に渡る採寸や、資材の調達など、2年越しの工事となった。

正午を過ぎ、小屋に戻って昼食中、一人の登山者が訪れた。大峯山寺の戸閉式に参加のため那智から歩いておられる東京都の西山昭弘氏だ。明日から3日間は台風接近で荒天の予報であり、無理をしないように進言、かなり悩んでおられたが、持経宿まで行って結論を出す、と出発された。

午後からは電気関係をチェックする。照明が点灯しない問題は、バッテリーを交換して解決。携帯電話の充電器は、USBプラグを逆向きに差し込んだようでコネクタが破損していた。交換の準備中である。

12時半ごろから小雨が降り出し、屋根も濡れていて靴のままでは滑るようになっていた。児嶋さんは雨漏り調査のために靴下だけで屋根に上がり、塔屋周りやトタンの傷みなどを調査するが、雨漏り部分の特定には至らなかった。



小雨の平治宿

本日の参加者(持経宿で)

スポーツ公園で解散

山川、沖崎、生熊の3名で薪造りや小屋内の整理も行った。

1時半前に小屋を後にする。帰路は久々に雨具着用、持経宿まで約一時間、さほどの雨量ではなく、霧がかかって幻想的な道中だった。持経宿では西山氏が待っていた。明日前鬼泊の予定だが、今日明日と前鬼で泊りたいというので、前鬼まで送っていくことになった。児嶋カフェが開店して休憩、全員で写真を撮ってから下山した。

西山氏は池原までを山川車、池原から前鬼までを梶野車が送り届けた。その後24日に「無事、東京に帰った」とメールがあった。

(記:沖崎)

## 行動タイム

池原 08 : 38 → 09 : 32 持経宿 09 : 41 → 10 : 44 平治宿 13 : 22 → 14 :  
18 持経宿 → 15 : 25 池原